

第 30 回「市川房枝女性の政治参画基金」助成金事業

## 国連ウィメン制作 DVD の概要

1. 「ハイチの女性・女兒に対する暴力：内なる敵」  
(Violence against Women and Girls in Haiti: The Enemy Within)  
国連 21 世紀テレビ・国連ウィメン制作 (2010 年 10 月) 8 分
2. 「平等への道：ジェンダーに配慮した政策と予算」  
(The Path to Equality: Planning and Budgeting with a Gender Lens)  
国連ウィメン制作 (2011 年 7 月) 16 分
3. 「手をたずさえて：女性・平和・安全保障」  
(Side by Side: Women, Peace and Security)  
オーストラリア民軍協力センター・国連ウィメン共同制作 (2012 年 7 月) 33 分

(特定非営利活動法人) 国連ウィメン日本協会

## 1. 「ハイチの女性・女兒に対する暴力：内なる敵」

### (Violence against Women and Girls in Haiti: The Enemy Within)

国連ウィメン・国連 21 世紀テレビ制作（2010 年 10 月）8 分

2010 年 1 月 12 日に発生したハイチ地震は、30 万人を越える死者を出す大惨事となった。この映像は、ハイチ地震後の「女性に対する暴力」の問題と、それに対してどのような対応がおこなわれているかを描いている。

ハイチでは、昼間に、女の子が一人で走っているだけでも危険なことがある。その言葉を裏付けるように、日中、買い物からの帰りに男に襲われ、通行人の助けで奇跡的に難を逃れた 13 歳の少女の話で映像は始まる。しかし、このように助けられる例はめったにないのが現状である。ハイチでは、女性に対する暴力は、何十年もまえから日常的に行われてきたが、2010 年 1 月の地震は、その状況をさらに悪化させることになった。多くの人が家をなくし、テントや路上での生活を余儀なくされ、自分の身を守ることができる安全な場所で生活することが困難になったが、その結果、窮屈な暮らしに不満を募らせる男性たちから、以前に増して、女性と女兒が暴力の標的にされている。

被害を受ける女性の低年齢化が進み、その標的の大半が 18 歳以下の女性であるという懸念すべき現状がある。それどころか、もっと小さい女の子が被害を受ける例も多い。映像では、テントに暮らす生後 13 か月の女の子が、母親の留守中、彼女の交際相手から性的暴力を受けたという悲惨な例が紹介される。このような悲惨な事件の再発を防ぐために、夜間、睡眠中の女性を暴力から守るための巡回パトロールが開始されるなど、この女の子のいたキャンプの防犯体制はいくらか改善された。だが、地震によって、多くの警察官が死亡し、警察の施設も破壊されてしまった国家警察には、現状に十分に対応できる能力はない。国連警察軍にしても、すべての地域の治安をカバーすることは不可能である。

国連ウィメンの支援を受けた団体が、治安強化の支援に乗り出し、ボランティア・チームを組んで、各キャンプやテントを巡回して、そこに暮らす女性を暴力から守るための活動を始めた。だが、地震の被害を受けて廃墟となった地域は広く、身を守るすべがほとんどない女性たちは多い。出かけるときは女の子を一人で置いていかないようにと言われても、頼れる人はほとんどいない。彼女たちが、自分の子どもたちと共に、安心して暮らせるようになるまで、まだまだ険しい道のりが続くことを暗示しつつ画面は終わる。

紛争や自然災害が、女性の直面する危険、とくにジェンダーにもとづく暴力を誘発する危険をいかに増大させるかを描きだしている作品である。

## 2. 「平等への道：ジェンダーに配慮した政策と予算」

### (The Path to Equality: Planning and Budgeting with a Gender Lens)

国連ウィメン制作（2011年7月）16分

ジェンダー予算は、男女間の不平等を改善し、ジェンダー課題に応える政策を実施するための重要なツールである。

まず、インドのある村の例が紹介される。それまで遠くの医療機関で医師の診察を受けるまでに何日も待たなければならなかったが、新しい予算の立て方によって、地元の行政機関が運営する近くの公立診療所で、無料で診察が受けられるようになった。ジェンダー予算によって、男女の不平等の原因は何か、その解消には何が必要かといった分析がおこなわれ、不平等をもたらしている原因を是正する施策を実施することができる。

ルワンダの政府職員によれば、政策があっても大切なのは実施である。ジェンダー予算策定の方針が採択された結果、財務省が各省庁と協力して、ジェンダー平等にもとづく予算配分をする体制を整えた。教育、農業、インフラ整備の各担当省が、都市部と農村部双方で、女性と女の子のための革新的なプロジェクトを実施するようになった。ジェンダー予算により「視点」ではなくて、「実施」に焦点が移る。人々の課題に応える施策をおこなうという点では、民主主義の実現の問題でもある。

モロッコでは、結果志向の予算改革の一環としてジェンダー予算が実施されている。今までは財務省が一方的に予算配分を決めていたが、ジェンダー予算に取り組み、評価のためにジェンダー分野の指標を採用するようになった結果、母子の死亡率が改善し、予防接種率、安全な飲料水の普及などの衛生面でも著しい改善がみられた。

セネガルでは、財務省がジェンダーの視点を考慮に入れることをほかの省庁に指示。従来は、女性たちは発言もせず意思決定にも参加できなかったが、いまや予算案の策定にあたって、女性の声が反映されるようになった。女性のことは女性が一番良くわかっている。女性が声を上げることは、住民参加型の民主主義の強化にもつながる。

マリでは、ジェンダー予算の策定を含めた政府の戦略が採択された結果、予算配分の行方がより明確になり、女性の課題に応える施策の実施とジェンダー平等が促進されてきている。

ボリビアでは、ジェンダー予算によるプロジェクトとして、男性がスペインに出稼ぎに行った結果、残された女性たちに対し、それまで男性がしていた仕事の技術を習得させる職業訓練が始まり、その結果、女性たちの経済力が向上し、女性たちに自信が生まれるようになった。

ミシェル・バチエレ国連ウィメン元事務局長の以下の言葉で映像は締めくくられる。「国連ウィメンの第一次戦略計画に掲げる6つの目的の一つが、計画・予算の立案過程にジェンダー平等の視点を確実に盛り込むことである。そのためには、最高レベル、とりわけ財務省のリーダーシップと取組みが何より重要である。」

### 3. 「手をたずさえて：女性・平和・安全保障」

#### (Side by Side: Women, Peace and Security)

オーストラリア民軍協力センター・国連ウィメン共同制作（2012年7月）33分

1994年のルワンダ内戦の際にレイプの被害にあった女性は25万人とも50万人とも言われている。現在、平和維持部隊の95%は男性であり、2011年におこなわれた14回の和平交渉の場に参加した女性は4人しかいない。

映像は、パン・ギムン国連事務総長の言葉で始まる。紛争中あるいは紛争後に女性を暴力から守り、エンパワーすることは国連の最優先課題である。平和維持活動や和平交渉にジェンダーの視点を入れ、女性・女兒を性的暴力から保護し、性的暴力に対する不処罰の歴史に終止符を打ち、正義を達成することが国際社会に課せられた責任である。安保理決議1325号「女性と平和・安全保障」の採択以来、女性と平和・安全保障の問題に注目が集まり、和平プロセスや平和構築への女性の参加が女性の保護だけでなく紛争そのものの防止にもつながり、また持続可能な平和に貢献するとの認識が高まってきた。

まず「保護」の重要性が語られ、南スーダン、ブルンジ、リベリアなどでの紛争を生きのびた女性たちが、自分たちの体験を語る。国連機関、平和維持活動、国連警察の担当官やNGOワーカーへのインタビューから、20世紀後半の紛争において、性的暴力が場合によっては武器として用いられ、女性が暴力の犠牲になり、避難を強いられる被害者であったかが語られる。紛争下での性的暴力に関しては、「紛争下ではどうしようもないこと」であり「口に出してはいけない」ことであり「たいした罪ではない」という3つの誤解と戦う必要がある。そして、紛争下における性的暴力からの女性と女兒の保護の問題に、平和維持部隊も真剣に向き合う必要がある。不十分ではあるが、加害者の訴追に向けた努力もおこなわれている。

「防止」にあたっては、まず教育の重要性が強調され、またロールモデルの重要な役割が語られる。暴力を防ぐ方法を考える際にも、女性自身が参加することが重要である。女性通訳の配置、女性だけの警察部隊の設置、女性を活用するコミュニティ警察の創設等により、女性と地域社会の連携がより緊密になり、地域のニーズをよりよく把握できるようになる。それらの活動が効果的におこなわれる前提として、女性が教育や財産面で平等な権利をもつことも重要である。

最後に「エンパワーメント」の重要性が語られる。女性たちは、自分たちには意見を言う権利があることを理解すべきであり、そのためのエンパワーメントが重要である。女性は平和の「創造主」であり、困難な状況にある国々で重要な役割を果たしている。バチエレ元国連ウィメン事務局長も、平和のために戦っている女性たちを支援すべきだと強調する。「女性はどこに参加しているか」「女性の人権が考慮されているか」を常に考える必要がある。「女性が平和構築に参加できれば素晴らしい。私たちはあらゆることについて手をたずさえて進んでいきます」というシエラレオネの女性の言葉で映像は終わる。